

技術戦略

OKIのコアコンピタンス「タフネス」

社会インフラの「止まらない／止めない」を実現する高度な技術を保有しています。技術開発のバリューチェーン全体に強みを持つ、このコアコンピタンスを「タフネス」と呼びます。

信頼性、可用性の高いプロダクト・サービスを創出するのみならず、AIや信号処理などでさまざまな環境に耐えうる高性能を実現し、日々生まれる膨大なデータの高度活用を可能とします。このように、「タフネス」を構成する技術の強みをさらに伸ばしていくことを技術戦略で定義しています。

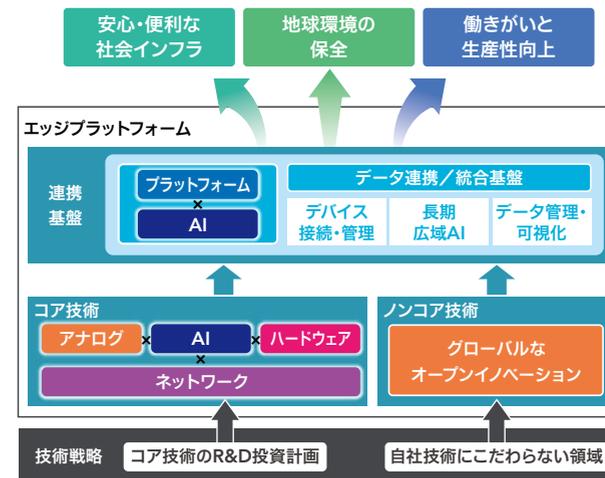


※ラギダイズ：製品やシステムに、耐熱や耐寒、防水、防塵、耐衝撃といった耐環境性を付与する技術

エッジプラットフォームによる技術革新

「タフネス」を土台に、コア技術の高度化とデータ利活用を推進することで、スピーディーに社会に貢献するための技術コンセプトが「エッジプラットフォーム」です。「エッジ」とは、さまざまな情報が行き交い処理されるデジタル空間と私たちの生活のリアル空間との接点のことです。OKIは、このエッジに数多くの事業で培った技術的な強みを持っています。たとえば、光・音響・電波などでリアルを詳細に捉える「アナログ」技術、メカ／エレキで高度なデバイスを創る「ハードウェア」技術、そこで得たデータを高度活用する「AI」技術、リアルとデジタル空間をつなぐ「ネットワーク」技術があります。さらに、それらをつなぐ連携基盤としての「プラットフォーム」技術も開発しています。

「エッジプラットフォーム」によって、これらの技術の再利用性と開発効率を高めるとともに、データの横断的な活用を進め、ソリューションの提供価値を高めていきます。さらに、オープンイノベーションを活用し、幅広い最先端技術もエッジプラットフォームと連携し、社会課題解決のスピードを高めます。



光・音響・電波で社会インフラを快適にするアナログ×AI技術

OKIは、コア技術である「アナログ」技術と「AI」技術を掛け合わせ、高精度で耐環境性の高いエッジのセンシングや制御などの技術を実現しています。たとえば、ETCなどで活用される電波の技術は、天候によらず高速に移動する車両を捉え、確実な通信を提供します。路側の技術として、今後の自動運転に対しても、インフラ側から安心と便利を提供していきます。

また、光ファイバー通信で培ってきた光技術は、光ファイバーやレーザーなどを用いたセンサーへの応用を進めています。これにあわせてシリコンフォトニクス技術に取り組み、複雑で大きな光回路を10万分の1レベルの超小型チップに進化させ、社会インフラでの活用拡大を推進していきます。

今後も、現場で高度なデータを生み出すこれらのアナログ技術とAI技術の掛け合わせで、提供価値を高め、社会インフラの高度化に貢献していきます。



AIの安全な活用基盤の構築

OKIは現在のAIブームに至る30年以上前からAIの開発に取り組んできました。この間、AI技術の高度化だけでなく、インフラを支える企業の責任としてリスクも含めたAIとの向き合い方を重視してきました。技術の成長が著しい生成AIにおいても、セキュリティ面での対策を十分に行ったうえで、社内業務効率化や事業での活用を積極的に推進しています。セキュリティを確保した活用基盤の構築と社員教育を同時に進め、社会インフラに安心して組み込み可能なAIを提供します。

OAiCO (OKI AI COmmunity)

AI・データ利活用の浸透をOKIグループ内コミュニティ活動により推進

- OAiCO Academy
全社員向けリテラシー教育、職種別活用教育、実践教育
- OAiCO Workshop
生成AI活用アイデアソン、機械学習・データ活用ハンズオン
- OAiCO Seminar
社外有識者を招いての全社向けAIセミナー
- OAiCO Platform
ChatGPTなど社内生成AIサービスの展開